

アメリカ移民の話 7

昭和十六年（一九四二）十二月八日、日本海軍はハワイ真珠湾の米太平洋艦隊を奇襲攻撃しました。日付変更線の向こう側（東側）のことで、現地では十二月七日です。

この時のラジオニュースは戦後生まれの私でも、ドキュメンタリーやドラマを通じて、何度も聞いて耳に残っています。インターネット上で公開されているので、あらためて採録してみます。音声と書き起こした文章がありますが、書き起こしには誤りがあるもので、音声によって修正しました。アナウンサーが早口で、独特の抑揚もあいまって、緊迫感が一層増してきます。前後に軍歌の演奏、臨時ニュースを知らせるチャイム音が入っていることは初めて知りました。

〔海ゆかば〕演奏

（チャイム音）臨時ニュースを申し上げます、臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部、十二月八日午前六時発表。

※帝国陸海軍は今八日未明、西太平洋においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態に入れり。（※繰り返し）

（チャイム音）臨時ニュースを申し上げます、臨時ニュースを申し上げます。帝国海軍はハワイ方面のアメリカ艦隊、ならびに航空兵力に対し、決死の大空襲を敢行し、シンガポールその他をも大爆撃しました。大本営海軍部今日午後一時発表。

〔一〕帝国海軍は本八日未明、ハワイ方面のアメリカ艦隊ならびに航空兵力に対し決死の大空襲を敢行

手に開戦したのです。

西海岸に住む日系人がスパイ、あるいは破壊工作に従事することを恐れたアメリカは、真珠湾攻撃の日、FBIが日系人の指導者数十名を拘束しました。残った人々も居住地から五マイル（約八岐）以上離れることを禁じられました。日系人が西海岸から強制的に移住させられるのは翌年四月。ある者は収容所（鉄条網に囲まれていた）に送られ、ある者は内陸部の転住地に集められました。

柏屋町・須恵町からのアメリカ移民、安河内家・原田家の人たちの生活も暗転しました。安河内家の当主喜三と次男泰介は、第一次世界大戦でドイツ軍の収容所に使われていた施設に送り込まれ、三男正象は残った家族とともに、アリゾナ州のポストン転住地に収容されました。喜三が家族と合流したとき、入れ違いに正象がFBIに連行されるなど、苦難に満ちた運命に陥ったのでした。泰介が許されて、転住地を出たのは昭和二十年五月、家族全員がもつたのは八月初めのことです。

この間、四男守夫（カリフォルニア大学卒）は兵役に就いていました。

兵役にあった末弟の守夫は、日系兵士で編成され、その勇敢な戦歴で名を馳せた四四二部隊の五二二野砲大隊の兵士として奮戦していたが、イタリア、ドイツが降伏したので除隊となり、一九四五年七月、ニューヨーク港に凱旋、上陸し、喜三に長距離電話

をかけ、無事帰国したことを報告してきた。家族全員がこの朗報に沸いた。（安河内隆介『父と子―日米に別れて生きた九十年』より引用）

四四二部隊（正式には「第四四二連隊戦闘団」）は日系人で組織され、ヨーロッパ戦線に送られました。ドイツ軍、イタリア軍と交戦しています。当初、アメリカ生まれの日系人二世で組織されたのは第一〇〇大隊で、その上部に連隊を持たない独立した部隊であったということです。ハワイ出身の約一四〇〇人が属していました。一方、四四二部隊は志願兵から成り、ハワイから二六〇〇人、米本土で八〇〇人が採用されました（当然ながら、後に補充されていきます）。四四二部隊がヨーロッパに到着すると、傘下の一大隊として第一〇〇大隊も繰り込まれることになりました。

四四二部隊は敵国人として収容所に送られた日系人から募兵したもので、応募した人たちは真のアメリカ人としての忠誠心を示し、勇敢に戦うことで、収容所の家族を助けたいという強い動機がありました。アメリカ生まれの二世は英語しか理解できない人が多かったことでしょう。多くの犠牲を払うことで、「米国陸軍史上最強の部隊」と榮譽を称えられました。日系人に対する差別意識の克服に貢献したとも評価されています。

「二世部隊」という映画の解説（昭和二十六年）がインターネット上に紹介されています。その一部

せり。

〔二〕帝国海軍は本八日未明、上海においてイギリス砲艦ペトレル号を撃沈せり。アメリカ砲艦ウェーク号は同時刻我に降伏せり。

〔三〕帝国海軍は本八日未明、シンガポールを爆撃して大なる戦果をおさめたり。

〔四〕帝国海軍は本八日早朝、ダヴァオ、ウエーク、グアムの敵軍施設を爆撃せり。

〔軍艦マーチ〕演奏

すでに大陸では、満州事変が昭和六年に勃発、昭和十二年には盧溝橋事件によって本格的な日中戦争へと戦火が拡大していました。昭和十六年の対米英開戦によって、日本は第二次世界大戦に参戦することになります。同じ十二月八日、イギリス領マレー半島、シンガポールも日本軍の奇襲攻撃を受けています。これによって、日本は中国で終わりの見えない戦争を戦いながら、さらにアメリカ、イギリス、オランダ（インドネシアを植民地としていた）を相

を引用すると、

日本人を祖先とする二世の志願者によって編成された第四四二部隊は、ヴォルターノ河、ラピドー河、カッシノ、アンツィイラ、ビーチヘッド、一四〇高地、ベルヴェデー、ルシアナ、レグホーン、アルノ河、南仏戦線ブリエー、マリタイム・アルプス、ラ・スペツィア、マッサ、カララ、ゼノアと各地を転戦、その勇名を轟かしたが、就中北仏戦線に於いての敵の重囲下に陥ったテキサス連隊（…後の引用ではテキサス大隊）の救出は、殆ど自殺的行為だと全世界の舌を捲かせた程の死闘振りであった。

大統領の感状七、パープル・ハーツ（戦傷者功労章）七千、勲章九千余を授けられている代りに、最初の四ヶ月の戦闘で、部隊定員の実に三倍の損害を受けている。次から次へと戦死傷者が続出し、あとからあとからと人員が補充されたからである。

イタリアとフランスで戦闘に参加し、

テキサス大隊の二二一名を救出するために、第四四二連隊戦闘団の二一六人が戦死し、六〇〇人以上が手足を失う等の重傷を負った。（インターネット上のフリー百科事典ウィキペディアからの引用）。二〇一〇年、オバマ大統領は四四二部隊に米国の最高位の勲章を贈りました。